

エスのところに行って報告した。

14:1 そのころ、国主ヘロデは、イエスのうわさを聞いて、

14:2 侍従たちに言った。「あれはバプテスマのヨハネだ。ヨハネが死人の中からよみがえったのだ。だから、あんな力が彼のうちに働いているのだ。」

14:3 実は、このヘロデは、自分の兄弟ピリポの妻ヘロデヤのことで、ヨハネを捕えて縛り、牢に入れたのであった。

14:4 それは、ヨハネが彼に、「あなたが彼女をめとるのは不法です。」と言い張ったからである。

14:5 ヘロデはヨハネを殺したかったが、群衆を恐れた。というのは、彼らはヨハネを預言者と認めていたからである。

14:6 たまたまヘロデの誕生祝いがあって、ヘロデヤの娘がみなの前で踊りを踊ってヘロデを喜ばせた。

14:7 それで、彼は、その娘に、願う物は何でも必ず上げると、誓って堅い約束をした。

14:8 ところが、娘は母親にそそのかされて、こう言った。「今ここに、バプテスマのヨハネの首を盆に載せて私に下さい。」

14:9 王は心を痛めたが、自分の誓いもあり、また列席の人々の手前もあって、与えるように命令した。

14:10 彼は人をやって、牢の中でヨハネの首をはねさせた。

14:11 そして、その首は盆に載せて運ばれ、少女に与えられたので、少女はそれを母親のところに持って行った。

14:12 それから、ヨハネの弟子たちがやって来て、死体を引き取って葬った。そして、イ

ヨハネは向こう見ずな正義感によって、ヘロデを非難したわけではありません。主の道を備えるという、自分の生涯の使命を力強く生きたのです。その結果、悪によって殺されましたから、ここだけ読むなら悪の力が勝ってしまったかのように思えます。しかしその後の歴史を見ると違います。

ヘロデは道徳を犯してまでも、兄弟の妻であるヘロデヤと結婚しましたが、その後ヘロデヤの野心にそそのかされて皇帝に上訴に行き、その結果は謀反人と見られて流刑の地で死んだのです。この世の権力がいかに強くても、神に反しては破滅の道をたどるしかないのです。

一方ヨハネはその使命を果たし、主イエスから大いなるものとの称号をいただき、当然ながらヘロデとは違って、すばらしい栄光の生涯を全うしました。ここに神の国に生きる者の勝利があります。

私たちは命の危険まではないでしょうが、何かを恐れながら信仰を貫けない場合があるかもしれません。そのときは、本当の勝利は誰の上に輝くのか、全能にして永遠の神を見上げて考えるようにしましょう。本当の勇気が信仰によって与えられるでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

